日本生体医工学会 2020 年度第5回理事会議事録案

日時:令和3年5月31日(月) 14:00~17:00

会場:ME 試験事務局内 会議室(CE コーポレーション)

<出席者>

 理事長:
 守本 祐司

 副理事長:
 木村 裕一

理事: 横澤宏一、山家智之、椎名毅(兼2021年大会長)

<Web 出席者>

副理事長: 成瀬 恵治

理事: 川田 徹、平田 雅之、松田 哲也、中島 一樹、坂田 泰史、黒田 知宏、

佐久間 一郎 (兼 関東支部長)、松村 泰志、原口 亮、村垣 善浩、塩澤 成弘、

杉町 勝、中島 章夫

監事: 吉田 正樹、中沢 一雄

<オブザーバー・出席者>

幹事: 坪子 侑佑、木村 雄亮

事務局長: 磯山 隆

オブザーバー: 大橋 俊朗(北海道支部長)、大城 理 (関西支部長)、嶋津 秀昭(北陸支部長)、

長谷川 純一(旧東海支部長)、渡邉 英一(現東海支部長)、 石原 謙 (中国・四国支部長)、家入 里志 (九州支部長)、

芦原 貴司、堀 純也、阿部 裕輔、望月 修一

<欠席者>

理事: 井村 誠孝、福岡 豊

監事: 澤芳樹

オブザーバー: 芳賀 洋一 (東北支部長)、杉原 伸宏 (甲信越支部長)

<理事会議題>

0. 理事会成立の件 守本理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 19 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

1. 次年度以降の新規理事の参画について 守本理事長

次年度より新たに参画される理事として、芦原 貴司先生、堀 純也先生の2名が、監事として、 望月 修一先生が紹介された。本理事会ではオブザーバーとして参加された。

- 2. 2020 年度 第 4 回理事会の議事録の承認【審議 A-3】 守本理事長 2020 年度 第 4 回理事会議事録案の内容について、全会一致で承認された。
- 3. 監事候補者辞退及び次点候補者の繰り上がりについて【審議 L-1】 塩澤理事

2021・22 年度理事・監事選挙の結果について、当選された監事候補者のうち1名より辞退の申し入れがあったため、理事候補者を除き次点候補者の望月修一先生を監事候補者としたいが規定にはないため、理事会承認に基づき繰り上がりを認めていただきたい旨が報告された。なお、望月先生の内諾は得ている旨も報告された。本件について、全会一致で承認された。

4. 2020 年度の理事選挙の選挙率、得票分布について【報告 L-2】 塩澤理事

2021・22 年度理事・監事選挙の投票率ならびに得票分布について今後の参考のための情報提供 として、Web 方式に変更されたことで 2020・21 年度選挙の 42%から 67%へと投票率が増加し た。その一方で、得票の分布や当選票数が大幅に変わったため、それについての情報共有が行わ れ、今後の選挙活動の参考にして頂きたい旨が報告された。

5. 2020 年度決算の会計監査完了報告 財務委員会【審議 B-1】 中島(一) 理事

2020年度の事業報告、計算書類、附属明細書、その他理事の職務執行の監査が完了した旨が報告され、全会一致で承認された。

貸借対照表について、収入、固定資産については例年通りで、経常経費計は3445万円と、前年度と比して1億円程度の収入減となった。これは主にME試験を実施できなかったことが原因である。支出も6000万円の赤字となっているが、内容については監事の中澤先生、吉田先生、澤先生、公認会計士の馬目先生にご確認いただき、問題ないことを確認済みである。

次に、2017-2020 年度の収支計算書内訳について、出版事業は 6000 万円程度の支出があったが、800 万円程度縮小できた。また、学術集会も沖縄大会で黒字化を達成している。2020 年度は学術大会、シンポジウムともに赤字だが、急遽オンライン開催対応があったため止むなしとした。各支部も予算内の運用ができているため問題なく、専門別研究会においても同様であった。特別委員会の会計については、学会活性化委員会の予算を削減していただいたことで約 180 万円の出費が 0 円となった。

2019 年度まで関係各位に黒字化に尽力していただき、その他の委員会も支出過剰ということはなかった。しかしながら 2020 年度において ME 試験事業を実施できなかったため大幅な収益減であり、試験事業に頼っている現状も問題であるとの意見があった。

6. 事業安定化基金切り崩しの報告【報告 B-2】 守本理事長

5月18日に理事・監事、支部長各位に事業安定化基金の一部取崩についての周知を行い、それ についての質問に対する回答が報告された。

2020 年度の流動資産合計が-4,890,228 円となり 2019 年度比で約570万円のマイナスとなってしまったため、流動資金がマイナス表示となり決算が成立しなくなってしまうことを回避するため切り崩しを行った。1000万円の切り崩しが必要だった理由としては、2021年度4月以降に未払いであった支払いを進めており、それらを含めた流動資産が正となるよう調整するためである。また、年度の状況をみて補填を検討中ではあるが、その時期については検討中である旨が報告された。

7. 基金取り崩しに関する総会承認の件【報告 B-3】 木村副理事長

COVID-19 による学会財務悪化への対応としての公益目的保有財産の取り崩しについての総会 承認に関して報告がなされた。

日本生体医工学会の資金は、基本財産に加えて IFMBE Travelling Fellowship 積立預金のほか、ME 試験、大会、会費収入に加え、これまでの運転資金からなっている。2019 年度には 150 万円の黒字であったが、COVID-19 による支出増で 2020 年度の財務体制の大きな悪化が起きた。試験会場確保のために試験事業積立基金から補填した。また、事業安定化資金から 1000 万円切り崩したが、現状 1 億 6000 万円の財産が残っている。しかし、これまでの貯金を大きく減らしてしまうことになり、また今後の COVID-19 のような事態の発生も想定し、取り崩した基金を復旧していく必要がある。

公益社団法人の運用は法により厳格に定められているが、景気の停滞を原因とした基金取り崩しは否定されない。しかし、公益化したため以前ほど資金を自由には使えないため、危機に対する備えが必要である。2022年の新潟大会はオンサイト開催を想定しているが、大会収入による黒字額は150万円であり、5000万円を補填するには30年かかる。試験事業に依存し続けるのは問題であるため、資金増のための取り組みを考えていかなければならない。総会報告、資産の復活のため、長い間変更のなかった会費値上げも含めて考えていくべきであると報告された。

また、加えて本報告の総会資料としての理事会承認を得たい旨が合わせて報告され、全会一致で承認された。

8. 学術大会担当理事の任命について【報告 T-3】 守本理事長

学術大会の開催に対する支援のための担当理事の新設について、木村裕一副理事長に依頼し、 ご了承いただいている旨が報告された。木村副理事長の任命について、全会一致で承認された。

9. 第 60 回大会について【報告 T-1】 椎名理事

第60回大会の開催形式について、ハイブリッドから完全オンラインへの変更を5月20日に会員向けに連絡し、ZOOMでの9会場規模で準備中である旨が報告された。また、現時点で事前参加登録数が575名であり、より多くの参加者確保を目的として参加費の値上げを取りやめ、当日登録も事前登録価格と同額にした旨も報告された。また、情報交換会の開催が中止となり、表彰式のみ開催する旨も報告された。

講演のオンデマンド化に対して、その対象セッションと公開期間、そしてオンデマンド期間中の参加登録の可否についての質問があった。対して、特別講演等が対象かつ対象者には連絡済みであり、オンデマンド期間は1カ月程度を予定しているとの回答がなされた。本件について、連絡されていない対象者が存在する可能性があるため、オンデマンド講演者に対する事前通知の最終確認を行う必要がある旨が報告された。また、オンデマンド中の参加登録も可能である旨が報告されたが、オンデマンドで視聴できる講演が限られている等の理由により、場合によってはクレーム等が出る可能性がある。そのためオンデマンドは開催期間と同待遇ではない旨をプログラム等へ明記する必要があるとの意見があった。

また、プログラム2日目夕方の表彰式について、暫定プログラムではYoung Investigator's Award しか記載されていないが、その他の賞の扱いについて質問があった。対して、事務局より学会賞等の表彰は総会にて実施予定である旨が回答された。

その他の質問があれば大会長もしくは事務局へご連絡いただき、理事会を通す必要や情報共有 の必要あれば理事長まで連絡いただきたい旨が報告された。

10.第61回 新潟大会の準備状況について【報告 T-2】 堀甲信越支部長

第61回大会(2022年6月28-30日予定)の準備状況について報告がなされた。大会長は坂本信先生(新潟大学保健学科)であり、1000名程度の参加を想定している。テーマは「新時代に向けた生体医工学」とし、既に16名の先生方に、実行委員をお願いしている旨も報告された。特別講演、企画、OSについてはこれから進めていき、決まり次第、改めて連絡する旨も報告された。また、現状は実開催(予定会場:朱鷺メッセ)を想定して準備を進めていく予定である。

次に、収支予算書案についての報告がなされ、情報交換会の実施や学会からの本部助成金 300 万円、市・県からのコンベンション助成金、寄付金等も含め、現状は 22,844,000 円の収入、22,290,000 円の支出を見込んでいる旨が報告された。

非会員の大会参加費について、例年 23000 円で設定してきたが、高額ではないかとの指摘があったが、改めて提案するとの回答がなされた。

また、本部助成金の300万円の寄付は理事会審議事項である旨が指摘され、全会一致で承認された。

11. 生体医工学シンポジウムについて【報告 U-6】 島津北陸支部長

2021 年度の生体医工学シンポジウムについて、完全オンライン開催に決定した旨が報告された。LIFE2020-2021 との共催で実開催を検討していたが、オンライン開催がライフサポート学会の理事会で決定した。また、前回提示の予算案では ZOOM システム利用による高額化が想定されていたが、演題募集、及び会費関連は業者に依頼するが、ZOOM に関しては自前で運営することで赤字を出さない方針とした。選奨、論文は各委員会にご協力いただき進めており、演題集めがこれからの段階であるため改めて報告したく、LIFE2020-2021 のプログラムとのセッション時間の重複が起こらないような工夫がされるため、両大会への演題登録にご協力いただきたい旨が報告された。

学生の投稿を促進するために査読・採択の時期が周知されているかについて質問された。それに対して論文に関しては編集委員会に一任しており、例年のパターンだと一回目の査読返却までのスケジュールは示しているが、一回の査読で採択される論文は少ないため一概には言えないとの回答がなされた。

また、編集委員会で毎年実施している論文の書き方についての講演の本年度の実施について質問があり、それに対して、近日中に編集委員会に相談する旨が回答された。

12.2023 年度から 2025 年度の大会を担当する支部【審議 T】 木村副理事長

2023-25 年度大会を担当する支部について、5 月 17 日対象の支部との相談に基づき、

2023 年度: 東海支部 2024 年度: 九州支部 2025 年度: 北陸支部

が担当することとし、理事会承認が得られ次第具体的な部分の決定を進めていきたい旨が報告された。しばらく開催していないのが今回の3支部であり、大きな視野で担当支部の決定が進められると望ましいとして、全会一致で承認された。

13.ME 技術実力検定試験事業の報告【報告 H】 中島(章) 理事

まず、第 26 回第 1 種 ME 試験について報告された。講習会は 2021 年 5 月 17 日 (月) ~6 月 19 日 (土) の期間でオンデマンド配信を開始した。6 月 20 日 (日) に試験を他の学会で経験しているオンライン方式で実施予定であるが、当初の見込みよりは受験人数減である旨が報告された。受験料は従来の 20000 円から 22000 円へ、再受験料は 10000 円から 13000 円へと値上げした。なお、講習会は計 4 時間分として、価格を 5000 円とした。

次に、第2種試験についての報告がなされた。第2種試験についてはオンライン化が困難であるため、2021年9月12日(日)に全国の各会場で現地開催することとした。COVID-19対策として、昼食のための休憩時間を挟まないような試験時間として11:30開始とした。また、以前からのME技術教育委員会での議論に基づき、今回より小論文問題を廃止した。

試験会場は例年通り全国 8 会場であり、東京は 3 会場である。また場合によっては東京電機大を確保し、どこか 1 会場がキャンセルとなっても予備として機能できるようにしている。大学キャンパスが新型コロナの影響で利用不可になった場合、各会場での予想される参加者から予備会場の確保も考慮し、各会場の責任者と連絡を取りながら進めていくこととした。また、今後実施困難となってしまったときのために、会場近隣の大学等に受験会場として利用可能か、アンケートを取っている。なお、20 年以上変更なかったが、今回より第 2 種の受験料においても 12000 円から 15000 円へと値上げすることとした。なお、2020 年度の試験中止に伴い受験できなかった養成校の学生がいるため、本年度は最大 7000 名の受験者増が期待できる旨についても報告された。

上記報告に対して、試験当日の感染対策について質問があり、各会場入口にサーモグラフィ、 消毒用アルコールの設置のほか、不織布マスクの着用依頼、マニュアル作成、コロナ対策機材・ 備品のレンタルを準備中である旨が回答された。

14.2021 年度 臨床 ME 専門認定士 更新講習会開催スケジュール、及び講師決定

【報告 I】 中島(章) 理事

日本医療機器学会との合同の臨床 ME 専門認定士の認定事業について、2021 年度更新研修会の開催に関して報告がなされた。1種 ME 試験合格後臨床で2年以上経験を積むことで、専門認定士の資格を取得可能である。COVID-19の影響で2020年は認定更新のための更新研修会を開催できなかったため、認定期間を1年間延長していたが、本年度においては開催を検討している。これまでに、オンラインでの開催方針を決定し、講習会受講料の支払い方法を改善、講義内容にCOVID関連、昨今話題のサージカルスモーク・ミスト関連を取り上げることとし、各テーマの講師が決定した。

今回、40名の候補者が両学会の委員会によって認定されるが、医療機器学会側では4月に認定が承認されている。よって、理事会承認によって、正式決定としたい旨が報告された。

上記に対して、両学会の委員会で認定済みのため、全会一致で承認された。

15. 役員等への定期の利益相反申告の依頼について【報告 N】 杉町理事

役員等への利益相反申告の依頼について、今後の実施の流れについての報告がなされた。

指針・細則については理事会承認済みであるため、各委員会で利益相反申告を進めていただいている。残されているのは役員の申告であり、どなたに申告を行っていただくかの確認用リストが回覧された。なお、既に委員会等で申告をされている先生は今回の申告は不要である。現在、申告の仕組みが固まった段階であり、今後毎年行っていく旨が報告された。

上記に対して、具体的な実施方法についての質問があり、基本事務局で管理し、利益相反委員会で必要になった際に預かる予定である旨が回答された。また、現状紙ベースでの実施を予定しているが、他機関で採用されている電子情報での管理の提案もなされ、セキュリティの問題もあるが管理が容易であることから検討することとした。

また、詳細な記載が多く、毎年度のアップデートが必要になることが予想されるため、事務局でのチェックをお願いしたい旨理事長より要請があった。

審議、承認に関しては、役員は臨時理事会で正式決定となるため、まず臨時理事会で会務にあたる先生方に申告書の提出を依頼することとした。

16. IFMBE 総会への Delegate の選出について【審議 E】 松田理事

International Federation for Medical and Biological Engineering (IFMBE) 総会への Delegate の選出について、これまでは日本生体医工学会から 3 名であったが、今年から日本臨床工学技士会が IFMBE に加入したため各国 3 名まで Delegate の枠をどう配分するかについて報告がなされた。学会の人数ベースで考えると日臨工が多いが、日本生体医工学会から日臨工の IFMBE 加入を推薦したこともあるため、JSMBE2 名、日臨工 1 名としたく国際委員会の委員長の松田哲也先生、IFMBE Asia-Pacific region Chair の佐久間一郎先生とで議論してきた。

上記に対して理事長より、専門性のある会務であるため適材を配置したい旨の意見があり、また、佐久間先生自身は IFMBE の Administrator Committee の一員であるため Delegate 枠を要せず総会に出席できることから、戦略的に進めていくために松田先生には引き続き Delegate となっていただき、もう一名を国際委員会から選出することとし、次回の理事会で報告することとした。

17. 新入会 退会 承認【審議 A-4】 村垣理事

第5回理事会における入退会審査について、入会希望が正会員20名、準会員9名で、退会希望が正会員35名、準会員8名、維持会員1社、逝去者が1名である旨が報告された。

上記に対して、入会希望のうち略歴書を未提出の1名には学会事務局より提出依頼の連絡を行うこととして全会一致で承認された。

また、退会者が多い原因を究明し、特に若手の退会希望を減らすための取り組みが必要である との意見があった。

18. 名誉会員推戴【審議 A-5】 村垣理事

名誉会員の推戴について、村垣善浩理事、山家智之理事との連名で名誉会員推薦書が提出された5名の候補者について、全会一致で承認された。

19. 研究会会長の交代について【審議 R】 原口理事

専門別研究会の会長交代は理事会審議事項であり、ユビキタス情報メディアと医療システム研究会について、保坂良資先生(湘南工科大学)より星義光先生(東京都立産業技術高専)への交代が2021年3月の理事会で承認されていたが、此度、星先生からの辞任願と、瀬戸僚馬先生(東京医療保健大学)を会長とする新たな事業計画書が提出された旨が報告された。

本件について、瀬戸先生が日本生体医工学会の正会員であることを確認したうえで、全会一致で承認された。

20. 関東支部選奨報告【報告 U-3】 佐久間理事

関東支部若手研究者発表会 2020 優秀発表賞の結果について、8 名の受賞者が報告された。本年 度はコロナ禍である事をふまえ、受賞者には賞状のみを送付する事とした旨が報告された。

本件について、資料上では受賞者が 7 名と記載されていたため、8 名に修正する旨が報告された。また、受付番号の記載が無い旨が指摘され、その点についても修正する旨が報告された。 以上より、受賞者 8 名について全会一致で承認された。

21. 生体医工学誌 執筆要項の改訂について【報告 F】 横澤理事

「生体医工学」の執筆要項について、動画・音声・高精細写真・プラグラムコード等のファイルを、論文の電子付録として J-STAGE で公開できる旨が追記された。また JST より、J-STAGE 上に「J-STAGE データ」というシステムを作成した旨が、5 月 28 日 (金) に報告された。これは論文に伴う大容量データの追加が可能となっており、J-STAGE に投稿の際に、Supplementary information として、こちらにも投稿してほしい旨が連絡されている。こちらを採用する場合、投稿規定の修正が必要となるため、編集委員会内で改定内容を検討し、次回以降の理事会で審議頂く予定である。

本件について、J-STAGE データの利用料についての質問があり、当面無料である旨が報告された。また、editorial manager の変更は必要ないが、editorial manager 内に J-STAGE データを取り込む事はできないため、別途査読が必要になる旨が報告された。そのため、査読の方法については、別途考慮する必要がある。また、J-STAGE データに投稿された内容を含む論文がアクセプトされた場合、現状、J-STAGE へのアップロードに費用が発生しているが、費用はどうなるのか質問された。本件について、J-STAGE データとしては費用の追加はないとしているが、現状は印刷業者より、J-STAGE 用の編集費用として請求が届いている。そのため、印刷業者側の作業が増加する事となるため、その点も含め、再度費用を確認する旨が報告された。

22. 生体医工学 Web 用語辞典の執筆状況【報告 J】 平田理事

生体医工学の web 用語辞典について、現状の執筆・編集状況について報告された。現在、執筆済 15%、執筆中 12%、未執筆 73%と滞っているため、学会主導の作業という点も含め、鋭意取り組んで頂きたい旨が報告された。また状況に鑑み、これまで締切を 5 月末としていたが、新たに7 月末を締切とし、それに伴い、守本理事長の名前も加えた上で、執筆催促の連絡を行いたい旨が報告された。特に生体医工学テキストが既に出版されているため、対応させるためにも web 用語辞典を早く完成させたい旨が報告された。

上記について、守本理事長の名前を使用しての執筆催促の連絡を行う旨について、全会一致で

承認された。

また、編集を担当者の横澤先生より、原稿のアップロードの方法が分からない著者の先生方より原稿をお預かりしており、使い方が分からない場合、誰に連絡すれば良いのか質問された。それに対し、現状は野村先生が直接対応している旨が報告された。

また、アップロード画面が非常に分かりにくいという意見が出された。特に注意されている箇所として、以下の3点が挙げられた。

- 1. 編集者が承認というプロセスを踏まなければ、変更前の内容が画面に反映される
- 2. 書き込む際、テンプレート通りに書き込むとエラーを起こす場合がある
- 3. 問い合わせに対して返信していないこともあり、コミュニケーションエラーが非常に大きい特に上記の点について改善されなければ、さらに執筆・編集作業が滞る恐れがある。これらの改善のため、Q&A 欄の用意のような使いやすくする工夫をするよう依頼された。

23. 第 60 回大会 YIA、サマースクール、及び講演会事業【報告】 原口理事

若手研究者活動 WG の活動状況として、第 60 回大会における Young Investigator's Award(YIA)、サマースクール、講演会事業についての報告がなされた。

YIA については、応募演題数が増加したことに伴い審査員の人数を増員したこと、また、1 応募者が複数演題を登録した際の対応として、同一応募者から登録された全演題を 1 次選考の対象として、選考結果のうち、より点数の高い演題のみを採用することとした。

生体医工学サマースクールについて、昨年度は COVID-19 で延期されたが、昨年度に引き続き 看護理工学会と合同開催することとして、桑名健太先生(東京電機大学)が代表としてオンラインでの実施を準備中である。

また、講演会事業については、COVID-19の状況に鑑みて昨年度は未実施とした旨が報告された。

上記に対して、若手人材の拡充が図れているか、またその状況について質問があり、できるだけ新しい方に参加していただくよう工夫を続けている旨が回答された。また、YIA については、前年度の受賞者に次年度大会 YIA の審査委員になっていただくのはどうかという提案もあり、第60回大会において実行している旨も回答された。

24.2021 年度定時社員総会資料の確認【審議 A-1】 守本理事長

2021 年度定時社員総会資料案が回覧され、若手研究者活動 WG の報告を追記することとし、本理事会により修正が必要になった部分も生じたが、概ね資料が決定したため、6月25日の社員総会においては、提出された資料案に基づいて行うことについて、全会一致で承認された。

また、2021 年度定時社員総会終了後に開催予定の2021 年度第1回理事会について、オンライン開催を予定しており、定款上の出席者は確保済みであり、理事・監事の先生方にご出席いただきたい旨が報告された。

25.2021 年度 会務担当理事の予定について【報告 V】 守本理事長

2021年度の会務担当理事について、回覧された会務リスト案には修正が必要なため決定次第改めてメールにて連絡することとし、現理事の先生方には留任いただきたい旨が報告された。

上記に対して、担当理事変更に伴い若手担当をどうするかについて質問があり、若手研究者活動 WG のバックアップについて今回は理事長が担当する旨が回答された。

26. 理事会メーリングリストご確認依頼【報告】 学会事務局

理事会のメーリングリストの登録内容について、確認の上、連絡先等修正点があれば事務局ま でご連絡いただきたい旨が報告された。

		以上
議事録署名人		-
議事録署名人		-
議事録署名人		